MMPI-2 補助尺度群中の Marital Distress Scale(MDS)について

○美濃由紀子¹・笠井翔太²(非会員)・大谷義夫³・小口徹⁴

(¹ 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科・² 西武文理大学看護学部・³ 湘南さくら病院・⁴ 清瀬富士見病院)

キーワード: MMPI-2 補助尺度群 夫婦間問題尺度

Marital Distress Scale in Supplementary Scales of MMPI-2

Yukiko MINO¹, Shota KASAI^{2,*}, Yoshio OTANI³ and Tooru OGUCHI⁴

(¹ Tokyo Medical and Dental University, ² Bunri University of Hospitality, ³ Shonan-Sakura Hospital, ⁴ Kiyose-Hujimi Hospital)

Key words: MMPI-2 Supplementary Scales Marital Distress Scale

目 的

MMPI-1 は 1939 年に北米で発表され、半世紀を経過した 1989 年に改訂されて MMPI-2 となり面目を一新した。MMPI-1 には大枠での基礎尺度の中に 10 個の臨床尺度群が設定されていたが、臨床尺度群はそのまま MMPI-2 に受け継がれている。MMPI-2 では、これらの臨床尺度の維持と共に新たに内容尺度群(Content Scales)が創設された。また MMPI-1 施行の際、研究者の必要に応じて作成されて臨床解釈に応用されてきた数多の追加尺度群があるが、それらを取捨選択する形で、改めて MMPI-2 の補助尺度群(Supplementary Scales)が設定されている。この補助尺度群の中に夫婦間問題尺度(Marital Distress Scale; MDS と略称、14 項目)があるが、この尺度が臨床尺度と内容尺度にいかなる関連を持つのかを探ることがカップル事例個別研究に際して役立つと思われるので検討する。

方 法

研究対象は MMPI-2 補助尺度中の MDS 14 項目とこれに関連する臨床尺度と内容尺度である。10 個の臨床尺度群および 15 個の内容尺度群の中から、最も MDS の加点項目と共通加点項目数の多い尺度を探し出し、抽出した 2 尺度の加点項目をそれぞれ肯定・否定文に分けて MDS の加点項目数と対比する。この際、MMPI-2 では、MMPI-1 より引き継いだ臨床尺度群の全加点項目文は、意図的に 370 番以前に組み込まれている点に留意する。それより後の MDS と抽出した 2 尺度との共通加点項目文は MMPI-2 作成時に新たに付け加えられている。

選出された 3 尺度において、MDS を中心にして 3 尺度、2 尺度、1 尺度に共通する加点項目数を類別比較する。さらにこれらの項目文自体の分析から選択 3 尺度の類似性と相違性を検討する。

内容尺度群と補助尺度群について

内容尺度群は 1985 年 Butcher JN らによって創設され、1990 年に解説書が出版された。開発の第 1 ステップは、実験的小冊子である MMPI-AX 版(MMPI-2 の前身)の全項目文について、臨床心理学的に適切な独立の内容領域確定であった。最初 22 の内容領域(尺度)に振り分けられたが、さらに各尺度妥当性の統計学的検証、尺度と相関関係のない項目文の同定と削除、尺度と相関する項目文の同定と追加、変更された項目文を含む尺度の名称変更、改めて最終的統計学的調整を経過して 15 個の内容尺度群が決定された。その中の一つに家庭内問題尺度(Family Problems Scale FAM ; 25 項目)がある。この尺度の高得点者は通常、家庭内不和で悩んでいる。

MMPI-1 の追加尺度群は、各臨床尺度の尺度間隙を埋め、テスト事例の特徴を明確化した。その中で 18 尺度が信頼性・妥当性があり、臨床解釈に有用なものとして MMPI-2 の補助尺度群として採用されている。内訳は伝統的尺度として 4 個、追加尺度として 11 個、新妥当性指標として 3 個が確定している。現在まだ開発段階の尺度もあり、総数は今後増加する可能性がある。

MDS は追加尺度のひとつだが、MMPI-1 施行時代に作成されたものではなく、MMPI-2 作成時に新しく創設された。時を同じくして行われた生活史調査の一環としての結婚生活順応調査に本質的に対応する質問項目を、改めて MMPI-2 全 567 項目から選定したものである。

結 果

MDS の肯定項目は 8 個で、No21,22,135,195,219,382,484,563 であり、否定項目は 6 個で、No12,83,95,125,493,494 であり、No370 以前の旧項目は 9 個、新項目は 5 個であった。肯定加点項目と否定加点項目の数差は認められなかった。また MDS と共通加点項目の最も多い臨床尺度としては、精神病質人格尺度 (Psychopathic Deviate Scale (Pd); 50 項目、現在の人格異常尺度) があり、肯定・否定加点項目が共に 4 項目合計 8 項目が共通していた。MDS と共通加点項目の最も多い内容尺度は FAM であり、肯定加点 4 項目と否定加点 2 項目が共通していた(表 1)。

MDS, Pd, FAM の共通加点項目は No21,83,125,195 であり、MDS, Pd では No12,22,95,219 であり、MDS, FAM では No382,563 であり、MDS のみの加点項目は No135,484,493,494 であった(表 1)。MDS の項目文それ自体の検討も新設項目文を含めて、全体として生々しい愛憎測定文章は乏しかった。

考 察

MDS は夫婦関係にある男女の軋轢を同定するために Hjemboe S, Almagor M, Butcher JN が選定した。二人の家庭生活満足度、家族内の口論、親密さの程度などを計測する尺度であり、全体として 14 項目である。臨床尺度群の各尺度との共通加点項目を比較すると、MDS は Pd と最も関係が深く 14 項目中 8 項目(57.2%)が重複していた。内容尺度では FAM と 6 項目(42.8%)が重複していた(表 1)。

Pd 高得点者は、社会基準や集団の価値観に合わせる事ができず、反社会的または非社会的行動をとる。FAM 高得点者は家族との折り合いが悪く、家庭内に解決困難な問題をかかえている。夫婦関係はテストでは、そのもの自体を純粋に抽出するのは困難で、他の人間関係から類推されている。

このように MDS の加点項目の大部分は Pd または FAM と共通しており、MDS のみの加点項目は 4 項目に過ぎず、しかも、4 項目総てが常識的な対人態度に関する設問であった。MDS は夫婦関係の良否を探る尺度ではあるが、カップルの関係は大きく、社会人としての在り方や全体的な家族関係、特に幼児期・学童期の両親同胞の家族関係に依存していることを示唆していることが理解できる。

表 1 Pd, FAM の MDS との共通加点項目

<Pd の加点 50 項目>

True: 17, 21, 22, 31, 32, 35, 42, 52, 54, 56, 71, 82, 89, 94, 99, 105, 113, 195, 202, 219, 225, 259, 264, 288. (24 項目)
False: 9, 12, 34, 70, 79, 83, 95, 122, 125, 129, 143, 157, 158, 160, 167, 171, 185, 209, 214, 217, 226, 243, 261, 3, 266, 267. (26 項目)

<FAM の加点 25 項目>

True: 21, 54, 145, 190, 195, 205, 256, 292, 300, 323, 378, 379, 382, 403, 449, 478, 543, 550, 563, 567. (20 項目) 、
False: 83, 125, 217, 383, 455. (5 項目)

共通加点項目：灰色四角；MDS, Pd、四角；MDS, FAM